

## 2.3 施設整備による教育研究上の効果の発現過程（仮説）

情報収集・分析の結果を踏まえ、施設整備による教育，研究，地域貢献，国際化推進の4機能別の教育研究上の効果の発現過程の仮説を次ページに作成した(図表8)。



図表 8 施設整備による教育研究上の効果の発現過程（仮説）

インプット	機能	施設整備の目的	施設整備の課題(整備施設例)	整備内容 (課題解決策)	整備結果 (アウトプット指標)	寄与の仕方	短期的効果 (短期的アウトカム)	短期的効果指標 (アウトカム指標)	中期的効果 (中期的アウトカム)	長期的効果 (インパクト)
施設整備事業	教育機能	①幅広い教養習得への対応	高度化・多様化する教育内容・方法等に機動的に対応できるフレキシビリティの高い空間の確保 (講義棟、共通教育棟 等)	質的 量的	情報化講義室数 少人数双方向によるセミナー実施可能室数  講義室数 講義室面積 自習室数 自習室面積 プレゼンテーション室数 プレゼンテーション室面積	講義室の高機能化 きめ細やかな教育の実施 少人数教育への対応 動線の改善  多様な講義・演習・実験の実施に寄与 多様なカリキュラム編成 多様な教育環境の提供	学生の満足度向上 学生の学習意欲向上 語学力の向上	学生の満足度(アンケート) 授業への出席率(アンケート) ゼミナールへの参加率 受験生、学生数	多様な教育を受ける機会の向上 教育の質の向上	基礎的素養を備え、社会に円滑に参画できる人材の増加 優秀な人材の輩出
		②高度で専門的な教育ニーズへの対応	高度で専門的・実践的な技術を身につけるための教育環境の確保 (専門教育棟 等)	質的 量的	情報化講義室数 少人数双方向によるセミナー実施可能室数  専門教育スペース数・面積の増加 実験スペース数・面積の増加 収容人員の増加 専門的な教育に対応した教室数・面積の増加 自習室数・面積の増加	学習空間の確保 講義室の高機能化 きめ細やかな教育の実施 少人数教育への対応 動線の改善  高度で専門的な講義・演習・実験の実施に寄与 高度で専門的なカリキュラム編成 高度で専門的・実践的な教育環境の提供	学生の学習意欲の向上 専門的な教育機会の増加 学生の満足度向上 実験棟の利用増加、快適性向上 専門的知識を要する資格の取得 企業への就職増加 ゼミナール履修学生の増加 大学院進学率の向上 受験生、学生数の増加	学生の満足度(アンケート調査) 実験棟の利用回数 国家資格の取得(司法試験、英語検定 等) ゼミナールを履修する学生数 企業からの求人数、就職率 大学院への進学率 就職者数 受験生、学生数	高度な教育を受ける機会の向上 学生の意欲向上 教育の質の向上	高度な知識を身につけ、社会に貢献できる人材の輩出
		③豊かな教育環境の確保	多様な学習スペースの確保 (図書館 等)	質的	グループ学習室(スペース)数 PCを設置した学習室(スペース)数 リフレッシュスペース数	学習図書館機能の強化 情報処理センター等情報化施設との機能的な連携	図書館利用者の増加 書籍の貸出冊数の増加	図書館入館者数 書籍の貸出冊数	学生の意欲向上 学習支援機能の充実	豊かな知性と感性を磨き、人間的魅力を備えた人材の増加 ↓ コミュニケーション能力が高く、社会に貢献できる人材の増加 ↓ 誰とでも円滑なコミュニケーションが行われる社会の実現
				量的	自学自習スペース面積の増加 書籍収容スペース(書庫・書架等)面積の増加	高水準の知識に触れる機会の増加 学習スペースの提供				
			快適で豊かなキャンパスアメニティの形成 (福利施設、課外活動施設 等)	質的 量的	リフレッシュ空間の確保、学習環境の改善 学生間、学生と教員のコミュニケーションの活性化  コミュニケーションスペース面積の増加 学生相談室数・学生支援室数の増加	リフレッシュ空間の確保、学習環境の改善 学生間、学生と教員のコミュニケーションの活性化  リフレッシュ空間の確保、学習環境の改善 学生間、学生と教員のコミュニケーションの活性化	学習意欲の向上 受験生、学生数の増加 サークル活動の活発化 学生の満足度向上 コミュニケーションスペースの利用割合増加	授業への出席率 受験生、学生数 サークル活動への参加率 学生の満足度(アンケート) コミュニケーションスペースを利用する学生の割合(アンケート)	学生の意欲向上 学生同士の交流の活発化 学習支援機能の充実	

施設整備事業(インプット)・・・効果把握の対象となる施設整備事業(改修事業又は新営事業)の事業費及び施設を使用する組織、人員、設備等。

整備結果(アウトプット指標)・・・「施設整備事業(インプット)」によって提供されるスペースや施設機能であり、直接的に把握できる結果を想定(「施設整備事業」の結果を測定する指標としても使用)。

寄与の仕方・・・「整備結果(アウトプット指標)」から「短期的効果(短期的アウトカム)」の発現に至る過程を具体的に関連づける項目。

短期的効果(短期的アウトカム)・・・施設整備事業完成後、概ね2～4年程度の期間で、発現する効果。一部部門に顕著に発現し、若しくは発現が見込まれる効果。

中期的効果(中期的アウトカム)・・・一部部門に顕在化した短期的効果から発展し、3～6年程度の期間で大学全体に影響を及ぼすことが見込まれる効果。

長期的効果(インパクト)・・・施設整備事業(インプット)から中期的効果に至る一連の過程を経て、最終的に大学を超えて地域社会、日本社会、国際社会への貢献に波及することが見込まれる効果。

インプット	機能	施設整備の目的	施設整備の課題(整備施設例)	整備内容 (課題解決策)	整備結果 (アウトプット指標)	寄与の仕方	短期的効果 (短期的アウトカム)	短期的効果指標 (アウトカム指標)	中期的効果 (中期的アウトカム)	長期的効果 (インパクト)
施設整備事業	研究機能	①卓越した研究拠点の形成	高度な研究設備を有し、先端的な研究に対応できる施設の確保 (高度で先端的な機能を持つ実験室・研究室 等)	質的	共同利用研究スペース面積 機能向上実験室面積	教員の研究活動の効率化 きめ細やかな研究の実施 専門的研究への対応 研究室・実験室の情報化への対応 動線の改善 研究空間の安全性の向上	学外からの注目度・認知度の向上 教員、研究者の質の向上 研究者の研究意欲の向上 先進的な研究テーマの創出 企業が求める専門的人材の増加 実施可能な高度研究の増加 優秀な学生の入学、研究者の採用	競争的資金の獲得額 共同研究費の増加額 学術誌への掲載件数 学会賞等の受賞件数 企業からの専門職求人数 特許取得件数 先進的な研究テーマ件数 学生、研究者の増加人数	高度な研究成果の増加 研究テーマの質向上	高度な知識を身につけた研究者の創出
		②多様な研究活動の促進	多様な研究に専念でき、研究分野の裾野を広げる施設の確保 (独立した研究室・実験室、共同研究室・実験室、レンタルラボ 等)	質的	共同利用研究スペース数 若手研究者研究スペース数	多様な研究の実施に寄与 研究活動の効率化 きめ細やかな研究の実施 研究空間の確保 研究室・実験室の情報化への対応 動線の改善 研究空間の安全性の向上	研究分野の裾野が拡大 独創的な研究テーマの増加 若手研究者の研究意欲の向上 研究者の質の向上 優秀な研究者の採用 研究成果の質の向上 企業が求める専門的人材の増加	研究者の増加人数 研究テーマの分野数 外部資金の獲得額 共同研究テーマの件数 学術誌への掲載件数 学会賞等の受賞件数 企業からの専門職求人数	創造的・独創的で自立した研究者の育成 若手研究者のスペース確保による自立した研究の支援 研究成果の増加	多様な知識を身につけた研究者の創出
		③研究者の交流機会の増加	研究者同士の交流スペースの確保 (ラウンジ、交流スペース、会議室 等)	質的	交流スペース面積	研究者同士の交流、共同研究促進 交流による独創的なテーマの創出 研究開発のスピードアップ 研究環境の改善	国内外の研究者による共同研究の増加 研究者の質の向上 優秀な研究者の増加 研究活動の効率化 共同研究テーマの増加 独創的な共同研究テーマの創出 優秀な研究者の採用	共同研究の実施件数 共同研究費の増加額 学術誌への掲載件数 学会賞等の受賞件数 特許取得件数 外部獲得資金 研究者の増加人数	共同研究によるイノベーションの創出 研究分野の融合を促進する魅力ある研究拠点の形成 他大学との共同研究等、連携協力を推進する研究環境の確保 創造的・独創的で自立した研究者の育成 研究成果の増加	高度な知識を身につけた研究者の創出

施設整備事業(インプット)・・・効果把握の対象となる施設整備事業(改修事業又は新営事業)の事業費及び施設を使用する組織、人員、設備等。

整備結果(アウトプット指標)・・・「施設整備事業(インプット)」によって提供されるスペースや施設機能であり、直接的に把握できる結果を想定(「施設整備事業」の結果を測定する指標としても使用)。

寄与の仕方・・・「整備結果(アウトプット指標)」から「短期的効果(短期的アウトカム)」の発現に至る過程を具体的に関連づける項目。

短期的効果(短期的アウトカム)・・・施設整備事業完成後、概ね2～4年程度の期間で、発現する効果。一部部門に顕著に発現し、若しくは発現が見込まれる効果。

中期的効果(中期的アウトカム)・・・一部部門に顕在化した短期的効果から発展し、3～6年程度の期間で大学全体に影響を及ぼすことが見込まれる効果。

長期的効果(インパクト)・・・施設整備事業(インプット)から中期的効果に至る一連の過程を経て、最終的に大学を超えて地域社会、日本社会、国際社会への貢献に波及することが見込まれる効果。